

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100034		
法人名	医療法人社団 仁智会		
事業所名	グループホーム元菊		
所在地	石川県金沢市元菊町20番1号		
自己評価作成日	平成31年3月3日	評価結果市町村受理日	令和元年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	平成31年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

金沢駅より徒歩圏内。医療やリハビリ、介護など総合的にサービス提供を行っている、金沢春日ケアセンターの3階部分に位置します。普通の民家のようなグループホームとは一見違いますが、大きな建物や多職種が連携できる利点を生かして日々サービスの向上に努めています。それぞれの方が送ってこられた生活様式を大切に考え、今までと変わらぬ家庭的な暮らしにできる限り近づけるようお手伝いいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に、グループホーム元菊独自の理念を掲げている。地域の中でその人らしく生活できるよう謳っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会の訪問があったり年末にはキリスト教会によるクリスマス会を催したりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護実習の折に認知症介護のレクチャーを行い人材育成に貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は所定の回数に満たなかったが身体拘束についての話し合いや活動報告を行った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法的に判らない事、疑問な点など直接介護保険課に問い合わせるなど法令順守に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については行わないという前提のもと介護にあっており、日々の介護の中で身体拘束に抵触しないか職員同士の話し合いもしながら支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待が行われていないか常に気を配っている。職員一人ひとりが注意して虐待に抵触しないよう言葉かけや介護のありかたを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員を中心に権利擁護について学習し、必要な場合に活用できるようにしている。現状ではご家族の支援が行き届いており成年後見制度、日常生活自立支援制度を利用しているケースはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族によく理解してもらえよう平易な言葉を使い説明、契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段は話しやすい職員に声をかけていただき、気軽に意見を言えるよう体制を整えている。意見や要望に関しては管理者が責任を担っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回のミーティングの時や日々の仕事の中で意見や提案などを聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の給与査定制度があり個人の努力を反映させている。また建物内で研修があり働きながらキャリアアップができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に法人内の研修については参加を勧めている。また希望があれば法人外の研修にも参加できるよう勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に法人内のグループホームとの交流や、他事業所との交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴やサービス利用前の様子などに基づいて、ご本人やご家族から話を聴くようにしている。環境の変化に伴うリスクを予測し安心や安全の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会のときなど、ご家族と話しをしていく中で本人に対する意向を伺ったり、ご家族の方からも気になることなど尋ねやすい関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のニーズとご家族のニーズを見極め、主治医や関係のあるサービス事業者などと連携して対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	棟内散歩や食事中、レクリエーション中などご本人とコミュニケーションをとる中で、思い出話を聴いている。また、生活習慣の中でのご本人のこだわり気づけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には個別にゆっくり過ごせるよう配慮している。近況を伝え、ご本人が自宅ではどのように過ごしていたのか尋ねることもある。棟内散歩などの気分転換や居室に置く物のレイアウトなどをして頂いたり、ご家族がご本人にできる関わりをして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員とご家族とで相談し、ご家族の働きかけで友人や元同僚との面会があった。面会中はゆっくり過ごせるよう配慮し、面会後も、ご本人が混乱することなく、穏やかに過ごせるよう働きかけを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの座席はご利用者同士相性に合った配置をしている。ご利用者同士で新聞を順番に回すなど、自然なやり取りもみられる。ご利用者同士でトラブルが起きたときは、すぐ職員が間に入り、お互いに嫌な気持ちを引きずらないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後にご本人に会うことは少ないが、必要に応じて利用期間中の情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションの中で思いや希望の把握に努めている。介護の場での何気ない声かけの中からも意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはこれまでの生活歴や嗜好、サービスの利用状況の把握をしている。入居後も過去の記録を遡って確認し、暮らしぶりの変化や以前の状況を振り返っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントの中でご本人の状況を把握するだけでなく、日々の生活の中でもアセスメントとモニタリングを繰り返している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を踏まえ、主に介護職員とのサービス担当者会議を行い、意見を集約して介護計画を作っている。モニタリングは月に1度書面として残している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の中では、介護計画に対応しているか記載する欄と、ケア内容及び考察、処置、評価などを記入する欄に分けて記載している。記録を転記した申し送り表での情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科病院の受診の際などに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人を取り巻く人と人の関係を把握し、面会などつながりが途切れないように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一律に法人内の医師を主治医とするのではなくご本人やご家族が安心できる医師を主治医にして頂いている。必要な場合は安心できる専門医を紹介している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	建物内に看護職が勤務しているため、状態の変化があれば常に看護職に報告連絡相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護支援専門員がサマリーを作成、入院先の病院に持参するなど情報の共有化に努めている。退院時も介護支援専門員が病院を訪問課題を整理し今後のホームでの生活が円滑になるよう検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、必要時に相談をしている。その時その時で変わるご家族の思いもくみ取るようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故が起きた場合に対応できる様職員同士の勉強会をしたりやマニュアルの確認をしたりしている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	事業所にマニュアルがあり急変時の対応や連絡先などが書いてある。随時参照し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関として1階の金沢春日クリニック、バックアップ機関として渡り廊下でつながった介護老人保健施設金沢春日ケアセンターがある。常に支援を受けることが可能である。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したもとなっている	定期的に防災訓練を行っている。火災時等は2次被害を防ぐ観点から、地域住民等は建物内に入らないよう消防より指導されている。大地震が起きた場合には近隣の職員が駆けつけることになっている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総務課にて災害時の備品、物資の管理を行っている。また階により火災があった場合の応援体制が異なる為、一覧表を事務所にて管理し非常時に備えている。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	マニュアルの更新や非常食、飲料水、停電時の非常灯など総務課にて整備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりに対して言葉づかいなどに気を付け、尊厳を守っている。プライバシーを尊重し、大勢の場所での声掛けの仕方に配慮している。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で何か選ぶ場面を作ったり、選択肢のある声かけを心がけている。ご本人の表情や視線をみて、思いを察知できるようにしている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は、ご本人のペースで過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みになるように配慮を行っている。理美容はパーマをかけるなど、以前とかわらないおしゃれをしている方もいる。また、誕生日や行事の時に化粧を楽しまれる方もおいでる。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った食事形態で提供をしている。献立は季節や祝い事を考慮したり、ご利用者と一緒にメニューを考えることもある。食器の下膳を手伝ってくださるご利用者もいる。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はバランスを考えながら作っている。お一人おひとりの食事量や水分量の把握に努めている。食事量や体重の少ない方には補助食品を提供したり、水分摂取がすすまない時に好みの飲み物を出している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	主に起床時と夕食後の2回、口腔ケアの支援を行っている。必要に応じて義歯の手入れや装着など見守りや支援を行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表など活用し、個々のパターン把握に努めている。状況に応じて、トイレへお連れしたり衣類の上げ下げなど支援している。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すためおやつ時にオリゴ糖入りヨーグルトなどを提供している。テレビ体操をしたり、フロア内外の歩行など、運動する機会を作っている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっておらず毎日行っている。入浴を嫌がる方には、声かけの仕方など工夫しながら、心地よく入浴できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体の疲れをとるために短時間臥床している方もいる。また、その日によって顔色などをみながら居室で休む時間を作れるよう配慮している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、一目で分かるようファイルに綴じている。誤薬や飲み忘れが出ないように、三重のチェックを行い、声かけ確認を徹底している。内服の変更や臨時の処方薬が出た際はこまめに申し送りをし、情報の共有に努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご本人の興味、能力などをみながら、塗り絵や書字などをすすめている。一緒におやつ作りをすることもある。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	棟内散歩や近くのスーパーへの買い物同行など、気分転換をはかれるように努めている。ご本人の誕生日やお盆、年末年始などにご家族と外出や外泊に行かれる方もいる。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、ご本人が安心できる金額を所持している方もいる。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が不安になったとき、家族の方へ電話し、声を聞いて安心できるよう支援している。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度に配慮し、ご本人の体感温度も聞きながら寒暖の調整を行っている。季節の花を飾ったり、季節感が出るような飾りをご利用者と一緒作り、展示を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの隅にソファーやミニテーブルを配置し、一人で静かに過ごしたり、ご家族や知人との面会に活用している。食堂の座席は気の合う方を隣同士に座れるようにしている。話をあまりしない方にも人の気配を感じながら過ごせるよう配慮している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は、テレビやラジオ、ペンや手作業の道具などが置いてある。また、ご家族が写真や置き物といったご本人になじみ深いものを飾るなど、ご本人にとって居心地の良い空間作りに努めている。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーになっており、段差はないが、フラットな床でもつまづくこともあるため、足元の見守りをする場面もある。トイレのドアに分かりやすく貼り紙をしたり、ドアのノックや鍵かけなど行えるように支援している。		